

令和5年第2回大田市教育委員会定例会会議録

日 時：令和5年2月22日（水） 10時00分～11時20分

場 所：大田市役所4階小講堂

出席委員：教育長 武田 祐子

委 員 梶 伸光、竹下ちとせ、仲野義文、福間信隆、岩谷律子

欠席委員：なし

傍 聴 者：0名

事務局出席者：

森教育部長、勝部総務課長、坂井学校教育課長、大門社会教育課長
縄石見銀山課長、後藤給食センター長、矢田山村留学センター長、
湊人権推進課長、西上総務課長補佐（会議録作成者）

1. 開 会（司会・進行 森 部長）

森 部長 令和5年第2回大田市教育委員会定例会を開催いたします。

2. 会議録の承認について

森 部長 令和5年第1回定例会会議録について、訂正等ございませんでしょうか。

委 員 （はい）

3. 教育長報告

森 部長 教育長報告に移ります。教育長お願いします。

教 育 長 （資料にて説明）

令和5年2月教育長報告

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	
	出雲北陵高校吹奏楽部3名 表敬訪問(全国大会出場)	来客:東京演劇集団 風 来客:青木正三さん	来客:日本語指導者			池田小 学習発表会
			大田市中学校拡大会			自学教室
		ふるさととして未来作文コン クール表彰式				
6	7	8	9	10	11	12
政策企画会議	日体大との連携協定調印式	定例校長会	終日校長面接	終日校長面接		宅野子ども神楽文化財展
外出:石見銀山資料館	外出:給食センター		齋藤先生講演会(校長会)	学力育成MTG		総合発表会(志学中)
						自学教室
13	14	15	16	17	18	19
交付金要望活動(東京)	来客:ゆめの森 前島代表	大田小 授業研究会	来客:Virtualion株式会社 関係者・阪大 伊藤教授			高根県心身障碍児親の会連 合会大会
齋藤先生 三中通覧 一中 授業研	三市三町校務支援システム 導入に係る要望	学校給食会理事會	大田市学校保健會	外出:サンドミュージアム・銀 山資料館 他		面談:田淵久美子さん(松 江)
新潮社訪問(東京)			事務局会			自学教室
政策企画会議						
三役ランチミーティング						
20	21	22	23	24	25	26
政策企画会議	総合教育会議	定例教委	天皇誕生日	映画「破戒」(あすてらす)	王将戦初手立会(さんべ庄)	夜間中学校「こんばんはII」 (ふれあい会館)
外出:味覚の授業(池田小)	会議:スポーツ推進審議会	青少年育成講演会		政策企画会議		
第4回大田市学力育成協議 會	志学中全国スキー大会結果 報告市長訪問					
外出:サンドミュージアム						
27	28					
3月議会本会議	政策企画会議					
	外出:銀山テレビ					

森 部長 以上、教育長報告でした。ご質問等ありませんでしょうか。
岩谷委員 昨日の総合教育会議で感じたのですが、校長先生の多くが異動されてお顔も良く分からないと感じた事もあって、お願いしたいと思うのですが、先程の中学生の拡大生徒会も今後も続いていくと思いますので、そういう時にお声がけいただきたい。

齋藤先生については、私も現職の時、直接かかわっておりますので、どんな授業をしておられるのか、コロナがあって受入れが難しいという事があれば無理は言いませんが、そういう会がある時に事前にお声がけいただくと、今後どの様な授業が展開されるのかを頭に入れて色々お話しするとまた違うと思うのでお願いいたします。

教育長 ありがとうございます。段々ウィズコロナに向かっておりますので是非、様々な場面で委員さんにはお出かけいただき関わっていただきたいと思っております。今後は、ご案内をさせていただきます。

森 部長 他ございませんか。
委 員 (はい)

4. 議題

森 部長 議第3号「令和5年度 学校給食費について」
給食センター長、お願いします。

後藤センター長 (資料により説明)

森 部長 意見等ございませんか。
委 員 (はい)

森 部長 議第4号「令和5年度 教職員人事異動について」
こちらの議題は、非公開となっております。

5. その他

森 部長 2月27日から3月議会が始まります。3月補正予算、新年度当初予算がございましたので各課長からご説明致します。

① 3月補正予算

総務課 : 勝部課長 (資料により説明)

学校教育課 : 坂井課長 (資料により説明)

社会教育課 : 大門課長 (資料により説明)

石見银山課 : 縄 課長 (資料により説明)

山村留学センター : 矢田センター長 (資料により説明)

給食センター : 後藤センター長 (資料により説明)

② 新年度予算

総務課 : 勝部課長 (資料により説明)

学校教育課 : 坂井課長 (資料により説明)

社会教育課 : 大門課長 (資料により説明)

石見銀山課 : 縄 課長 (資料により説明)

山村留学センター : 矢田センター長 (資料により説明)

給食センター : 後藤センター長 (資料により説明)

森 部長 今年度の補正予算と来年度の当初予算についてご説明させていただきました。主な事業では、3市3町で校務支援システムを導入することになりました。県内では、松江市・出雲市などで導入されておりまして、この度、他市町との調整が整い導入の運びとなりました。これによりまして教職員の方々の負担軽減・働き方改革に繋がると思っております。昨日の総合教育会議にも話題となりました山村留学ですが、来年度の状況についてセンター長お願いします。

矢田山村留学センター長 令和4年度の長期留学生は11名おります。その内3名が継続で残り8名が終園という事で地元に戻ります。2月18、19日に令和5年度に長期留学を目指す親子さんに山村留学センターに来ていただきまして、親子体験留学という事で1泊2日の山村留学生生活を体験していただいています。これに6名の参加がございまして、面接ができたのが5組で、この5名を来年度迎え入れるという方向になっております。内訳としましては継続、新規合わせて小3が1名、小5が2名、中学2年が5名、計8名という状況になっております。

森 部長 長期留学生が少ない状況になります。このことによって山留の中学1年生がゼロ人、北三瓶中学校としても1年生ゼロ人となります。学校運営の点では、山村留学の子どもさんが何人来るかによって変わりますが、最近の傾向を見ますと、希望が少なくなってきました。

このことも根幹の学校のあり方、再編の考え方の見直しのところで議論していかないといけないというふうに思います。最初に説明があったかもしれませんが、国の補助金も入れて山村留学事業をおこなっており、一旦令和6年度でこの補助金が切れます。そうしますと1千万円を超える財源が入ってこなくなりますので、市の財源を持ち出しするかどうか大きなテーマとなると思います。このあたり、北三瓶、山口の方々からされると色んな思いもお持ちですので、しっかり丁寧に対応してまいりたいと思っております。何かご質問等ございませんでしょうか。

福間委員 通学バスについてですが、池田小・川合小の統合で1台マイクロバスが追加されました。これからの通学バス運行の考え方はどうなのか。学校を再編成すると、やはり通学用のバスが必要になってくるのではないかと。今までは業者への運行委託が多かった。例えば中学校、一中など業者に

合わせると、子どもの多く活動に制約が非常にあると思います。子どもの実態に応じたバスの運用が出来ないので、放課後の生徒の活動が非常に短くなる。時間設定された中では、帰ることに一生懸命になり、生徒の活動が出来ない。部活ばかりではなくて、生徒会活動や子どもたちがやっている活動の時間などがある。やはり大田市として、子どもたちが通い易い通学方法を考えると、1台とか2台とか大田市学校専用バス、通学専用バス運用というのを考えていただかないといけないのではないか。

勝部課長

市がバスを所有して運行している学校については、学校が出される日程に合わせてバスを運行することになっています。一部路線バスを使っている学校もごさいます。委員さんが言われるようにそこは融通が利かない部分かなと思います。石見交通へ委託し通学専用で走らせていただいているルートと、路線バスの時間に合わせて動いている所もありますので、路線バスのルート上におられる生徒さんにはそのようなことが生じておることはあろうかと思ひます。

今後、再編を進めていくとなると、統合することで通学問題は生じてまいります。学校が遠方になると、当然個々では通学できませんので通学方法の確保が一番大きな課題だと思ひております。昨今、通学バス会社さん、タクシー会社さんが運転手さんの確保が難しいという事がありますので、担当の者が研究しているのですが、他市さんを参考にしながら先々どうしていくかというところは、生徒さんに合ったような運行が出来るようにということも含めて検討・勉強して今後、取り組んでいきたいと思ひております。

森 部長

昨日の総合教育会議の話の中でもあったように、地域づくりも合わせて考えていくことも必要ではないかと思ひております。井田地区から温泉津小学校へのバスは、今年度で委託事業者さんが無くなりましたので、そこで働いておられた方を市の会計年度職員としてお願いをさせていただいております。井田地区は地域づくりが盛んな所ですので、地域で運営できるような仕組みにして、その委託料等を地域づくりに活用出来るような仕組みを考えていただくのも一つの案ではないかと思ひております。地域の方々がそれを原資として、地域の維持活動に使っていただくということも含めて全庁的に考えていく必要があると思ひております。池田でも学校統合にあたっては、そういうことも提案させていただきました。

仲野委員

ふるさと教育、市長がおっしゃるように大田を愛する子ども、要するに心の教育だと思ひます。一方で、地域の歴史や文化を学習することが学力と結びついていくことも大切です。それには地域の自然や歴史、文化の教材化が重要であり、そのための予算化が、ある程度必要だと考えます。教材化にあたっては教育委員会の中で行うのか、あるいは民間にま

かせるのかはありますが、地元でしっかりやっていくことが大切だと思います。

教育長 昨日、ふるさと教育に絞った話は出来なかったですが、結局、「大田市全体としてのふるさと教育」というものを作っているのかなというのは少し思います。各学校や先生個々に任せている所もあって、最近では形骸化、マンネリ化していると私も思っています。そこへ新しい風を入れていくためには教材化が大事な事は重々分かっておりますし、それをやっていきたいと思っています。しかし、働き方改革で教員が地域を歩いていないのではないか、あるいは新しい宝はあるけれどそれを教材化するような努力をしていないのではないかとも思います。そういう意味では教材化の委託を考えてみても良いのではと思っています。

仲野委員 日本遺産なども理科の教材としてはすごくいいと思います。だけどやはり、先生達も先程の話ではありませんが、市外から来られて地元の事が分からない。それでは、一から勉強してくださいと言っても難しいので、ある程度、教材化された物が用意されていけば使い易いと思います。それを通して先生達も興味を持って現地へ行ってみようかなとなる。何もない状況でやってくださいというのが現状なので、やはり、もっとふるさと学習をやり易いような環境を作っていないといけないと思っています。

森 部長 学校の無い地域へどうやって行って、どうやって学ぶのかという事が課題としてあると思います。やはりそういう教材を少しでも作っていく、それはデジタルの力を活用して残していくことが必要だなと教育長と話しておりまして、そういう事を研究して、なんとか再来年度に少しでもそこへ着手出来るような形にしていきたいと思っています。

岩谷委員 教材化と共に、ここからは委員会の仕事ではないような気もするのですが、教材化した物を刷るだけだと打ち上げ花火になってしまいます。確かに、教材がデジタル化したものが出来ているとやり易くていいですけど、それだけやったらもう終わりみたいな形になってしまうのは怖くて、是非学校の方でも出来た教材をカリキュラム、教育課程の中にしっかり落とし込んで、毎年それが各学校でデジタル化したものが出来ればいいのですが、日々の授業の中に組み込まれるようなものが各学校に残っていないと、なかなか取り組みにくいのではないかと思っています。江津の学校へ教頭として赴任した時に、そういう事がキチンと出来ている学校でしたので、始めて教頭として行っても職員に声が掛け易かったですし、時間がある時に地域を回ろうと思った時に、そういう一覧表になった物が貼ってあるだけで、新しく来た管理職が「ちょっと見に行ってみましょうか」とか、「校長先生教えてください」ということを行き易かったのも、そういう物を研究するなどの機会を、教材開発と共にどんな教科でどんな所でも使えるというヒントまで含めて出していただけると現場

としては取り組み易いし、現場も研修する機会を持ってほしいなと思います。

仲野委員 おっしゃられるように、学校の中でアーカイブ化をもっと進めていかないと、それが蓄積されていきません。アーカイブ化により自由にアクセス出来るようになって、過去にどんなことをやっているのか分かります。意外に学校の中は熱心な先生はやられるけど、それで終わるので、学校でもアーカイブをしっかりとっていくのは重要だと思います。

教育長 以前、学校で年度の終わりに、この1年間取り組んだふるさと教育、あるいは総合的な学習を、みんなでもう1回見直して来年度どういう内容を取り入れたら良いかとか、内容に片寄りはないかとか、そういう話し合いをもち、次年度の計画を作っていました。しかし、そういうことをされていない学校も多くなっていると思います。

岩谷委員 私は教頭先生と相談して、職員室の皆さんがくつろがれている場所に、ふるさと教育の一覧表、各学年の評価の一覧表、年間計画を起案書にしたA3判の物を貼らせてもらって、実施したら赤線を入れるようにしておりました。やはり年度末に相談するのは難しいので、実施後には、休憩の時に話をするとか、ちょっとした工夫をされると先生方の負担なく出来るということを校長会で情報交換していたのですが、ここ2年でそれが変わってしまい、校長会・教頭会の中でも、昔こういう事をしていたとか、先輩からこういう事を教わったという事も引き継ぎにくいのかなと思います。

福間委員 志学のSSTをご覧になっていかがでしたか。

教育長 私自身はすごく興味関心があって発言させていただきました。1つは、中学生のSSTを小学生が見て、いずれ私たちもそこに到達するんだなという思いを持ってくれたら良いのではないかと話をしたら、今年は、何年かぶりに小学校が見たと言われました。次に、中身だけを見ると確かに面白いテーマで追求しているのですが、人が出て来ないのです。人に聞き取って、こういう人がこんな思いでふるさとに関わってくださって、そこにこんな疑問を持ったからそれを追求したといった所があまり出て来ていませんでした。一方で、鳥獣の被害の話をされた地域の方々が、「君はそういう場面に立ち会っているから、こんな写真が撮れているんだよね」という言葉や、牛乳のテーマでは、「顔が見えるラベルを作って良かった。だから僕も買ったんだ」と色んな言葉で励ましをいただいていた。

福間委員 志学最高（再興・再考）タイムとして活動を始めて、それを小学校に投げかけて参加させ、中学校3年生がどれだけのレベルで発表してと言うような所までもっていきたいという流れの中でやりましたが、その時は全校で地域を回ったり、或は一つの課題について、地域の方の所まで出かけて行って、それで自分でまとめて発表させました。一般の方々も参

集して、どういうまとめ方をしたのか見てもらったり、意見をもらったりするようなことも続けさせていただきました。その時はこの形というのが子どもたちに自主的な能力を付けていく教育課程の一つだと思って取り組んでいました。

岩谷委員 私も行かせていただきました。1年目にSSTを立てて発表会を小学校も一緒に5,6年生も見させていただいたのですが、これは素晴らしいと思ったのですが、残念な事に中1の子どもが自分のテーマを持てませんでした。私は小学校へ帰って直ぐこの話をして、目標として中1に上がった時に自分は何を調べたいのかを持てる子どもにしましょうと話をして、小学校3年生でミニSSTをカリキュラムの中に入れました。3年生の発表を中学校1年生が見に行き評価するという形を行いました。中学校の担任、管理職の先生に来てもらってこういう所が良かった評価してもらいました。ただ、中学生の様にパワーポイントが使えないので、紙芝居のような形で、実際に黒板に貼ったりして発表するという形で行い、それが順調に行っていたと思います。そして、繋がりが出来て良かったなと思っております。

福間委員 その教育が今一番大事だと思います。今、高校入学の際にも、自己推薦という形があり、中学校の校長先生の推薦でなく、自ら推薦出来るという形になっています。そういった事を考えると今みたいなスタイルで子どもたちがそれぞれに課題を持ちながら進めていくという教育が大事だと思います。

教育長 そういうあり方であれば非常に学力に直結していくものだと思います。

③「大田市伝統的建造物群保存地区保存審議会の委嘱について」

森 部長 (資料により説明)
意見等ございませんか。

委 員 (はい)

6. 閉 会

森 部長 本日予定しておりました議題は以上でございます。
次回は、3月23日(木曜日)14時00分からになります。
第2回の大田市教育委員会定例会を終了させていただきます。

以上の会議録は、第2回の会議録として承認した。

令和5年4月20日

教育長 武田 祐子

委員 梶 伸亮

委員 竹下 ちとせ

委員 仲野 義文

委員 岩谷 律子

委員 福淵 信隆